

●委員会報告●

COI アンケート調査報告

一般社団法人日本呼吸療法医学会
利益相反委員会

キーワード：COI, アンケート調査, 多職種会員

要 約

多職種が参加する本会において、利益相反（COI）状態がどのように理解され、開示されているのか調査するために、会員に対してメールによるアンケート調査を実施した。589名より回答があった（回答率39%）。ほとんどの会員はCOIという言葉を知っていたが、会員の30%以上は本会のCOI指針・施行細則を読んでいなかった。学会発表や論文投稿時にCOIの記載で困難を感じた会員は比較的少なく、多くの会員はCOI状態を開示することは有意義であると考えていた。今後は、COIをより理解するため多職種間での議論が必要である。

はじめに

生命科学に関する研究は、生命と安全を守るという観点から、倫理性、科学性を担保して行われるが、研究成果の発表についても公正さ、中立性が求められている。日本呼吸療法医学会（以下、本会）においては、これまで呼吸療法領域における研究により学術的・社会的に貢献してきたが、今後もこれを継続して公的利益を図る必要がある。一方、産学連携研究等により利権、地位、金銭等の私的利益が発生する可能性もある。

利益相反（conflicts of interest : COI）とは、これら公的利益と私的利益が相反する形で研究者個人や本会に生じることである。本会においては産学連携等の共同研究が報告されることもあり、時には研究データの適切な解釈、評価に悪影響を及ぼす可能性がある。

このような背景から、本会は2012年9月20日より「呼吸療法領域の研究における利益相反（COI）マネー

ジメントに関する指針ならびに施行細則」を施行している（人工呼吸2014 ; 31 : 278-84）。本指針・施行細則は、COI状態が生じる可能性がある本会会員、事務局員、本会学術集会ならびに本会機関誌での発表者、理事会、代議員会、委員会出席者が対象となり適用されるが、本会は医師ばかりでなく多くの職種の方が参加するため、それぞれがCOI状態をどのように理解し、開示しているのか調査することは有意義と考えられる。今回、本会会員に対してCOIに関するアンケート調査を行ったので報告する。

対象と方法

本アンケート調査はメールによる調査とし、メールアドレスを本会に登録している会員を対象とした。全会員2,150名のうち、メールアドレスが分かっている会員は1,709名（79.4%）であり、このうち198名はエラーで返送されたため、2014年6月19日に1,511名（全会

利益相反委員会：行岡秀和（大阪行岡医療大学医療学部理学療法学科救急医学講座、前委員長）、星 邦彦（東北大学病院集中治療部、委員長）、鶴田良介（山口大学医学部附属病院先進救急医療センター）、中根正樹（山形大学医学部附属病院高度集中治療センター）、尾頭希代子（昭和大学医学部麻酔科学講座）、福光一夫（愛染橋病院麻酔科）、柳下芳寛（医療法人相生会にしくまもと病院）、藤野裕士（大阪大学医学部附属病院集中治療部、前委員）、中沢弘一（東京医科歯科大学医学部附属病院集中治療部、前委員）、横田浩史（東京医科歯科大学大学院心肺統御麻酔学分野、前担当理事）、西田 修（藤田保健衛生大学医学部麻酔・侵襲制御医学講座、担当理事）

員の70.2%)にアンケート調査票を送信した。7月2日に集計を行ったが、回答者が306名(回答率20.2%)と少なかったため、再度アンケート調査依頼を行い、2015年3月3日において589名(回答率39%)から返信があったため、最終集計を行った。

結 果

回答した会員の職種は、医師252名(43%)、看護師101名(17%)、臨床工学技士165名(28%)、理学療法士62名(10%)、その他9名(2%)であった(図1-質問1)。回答者における各職種の比率は、医師26%、看護師19%、臨床工学技士37%、理学療法士48%、その他17%であった。

年齢は、全職種で30~50歳が多く、全体の70%を占めた(図1-質問2)。医師は50歳以上が最も多く(図2-質問2)、看護師・理学療法士は40~50歳(図3、5-質問2)、臨床工学技士は30~40歳が最も多かった(図4-質問2)。

すべての職種の会員がCOIという言葉を知っていたが(図1~6-質問3)、よく理解していると答えた会員は全体では50%であり、医師以外の職種ではすべて50%未満であった(図1~6-質問4)。「本会のCOI指針・施行細則を読んだことがあるか」という質問に対しては、30%以上が読んでいないと答え、職種間で差を認めなかった(図1~6-質問5)。

学会発表や論文投稿時にCOIの記載で困難を感じた会員は比較的少なかったが、学会発表や論文投稿をしたことがない会員も多かった(図1~6-質問6,7)。COIの申告金額については、「わからない」と答えた会員が多かった(図1~6-質問8)。

「COIがあると記載することに抵抗がある」と回答した会員は全体では19%であるが、医師に関しては26%と他の職種に比べてやや高率であった(図1~6-質問9)。一方、「学会発表や論文投稿においてCOI状態を開示するのは有意義である」と回答した会員は、全体では62%であり、全ての職種で50%を超えていた(図1~6-質問10)。

考 察

今回のアンケート調査により、ほとんどの会員がCOIという言葉を知っていることが分かった。COIが医師ばかりでなくコメディカルにも知られつつある現状を示していると思われる。一方、COIをよく理解していると答えた会員は50%であり、30%以上の会員が本会のCOI指針・施行細則を読んでいないと回答した。本会・利益相反委員会がCOI教育活動を積極的に行う必要があると思われる。

学会発表や論文投稿時にCOIの記載で困難を感じた会員は比較的少なかったが、機関誌の投稿規定や演題募集に明確に記載されているからかもしれない。しかし、解釈が難しい場合もあるので質問・疑問点があれば、積極的に学会事務局に問い合わせを欲しい。問い合わせがあれば利益相反委員会で検討し、できるだけ速やかに回答したい。

COIの申告金額については、「わからない」という回答が多かったが、最も問題となる事項のため、基準を明確にする必要があると思われる。COI施行細則は、数年ごとに見直しを行うことになっているので、今後学会内で十分議論し、関連学会の申告金額を参考にしつつ、改訂すべきであろう。

COI状態は、適切に管理されていれば特に問題はないと考えられているが、本アンケート調査では、約20%の会員が「COIがあると記載することに抵抗がある」と回答した。この比率は、医師会員においては26%とやや高値であった。一方、COI状態を開示する意義については概ね理解されているので、今後は心理的バリアを取り除くように学会としてもサポートの必要があると考える。

おわりに

COIという言葉は、医師ばかりでなくコメディカルにも知られており、COI状態の開示は有意義であると認識されている。今後は、COIに対する理解を深めるため、多職種間での議論が必要であると思われる。

本稿の全ての著者には規定されたCOIはない。

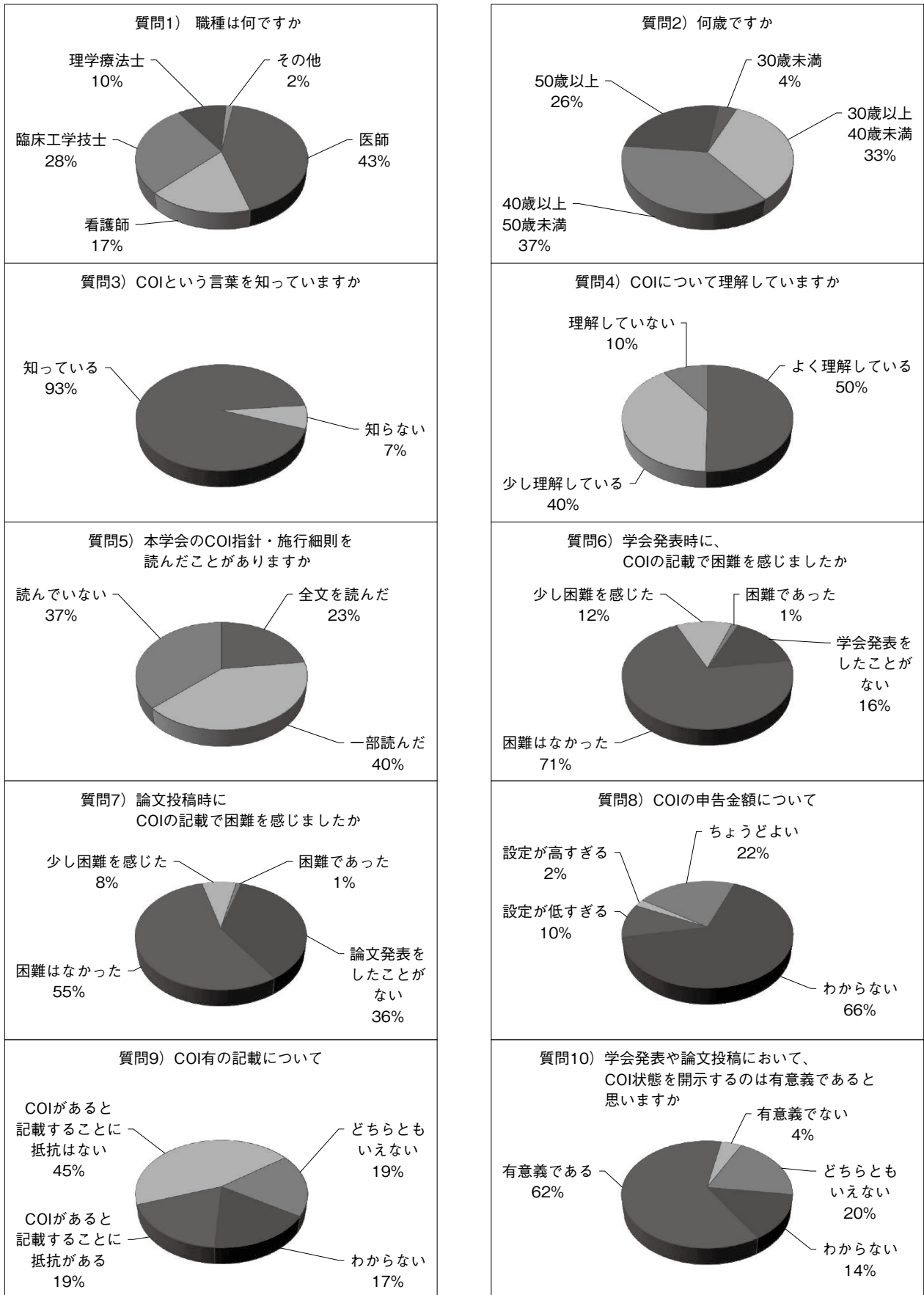


図1 日本呼吸療法医学会 COI アンケート集計結果

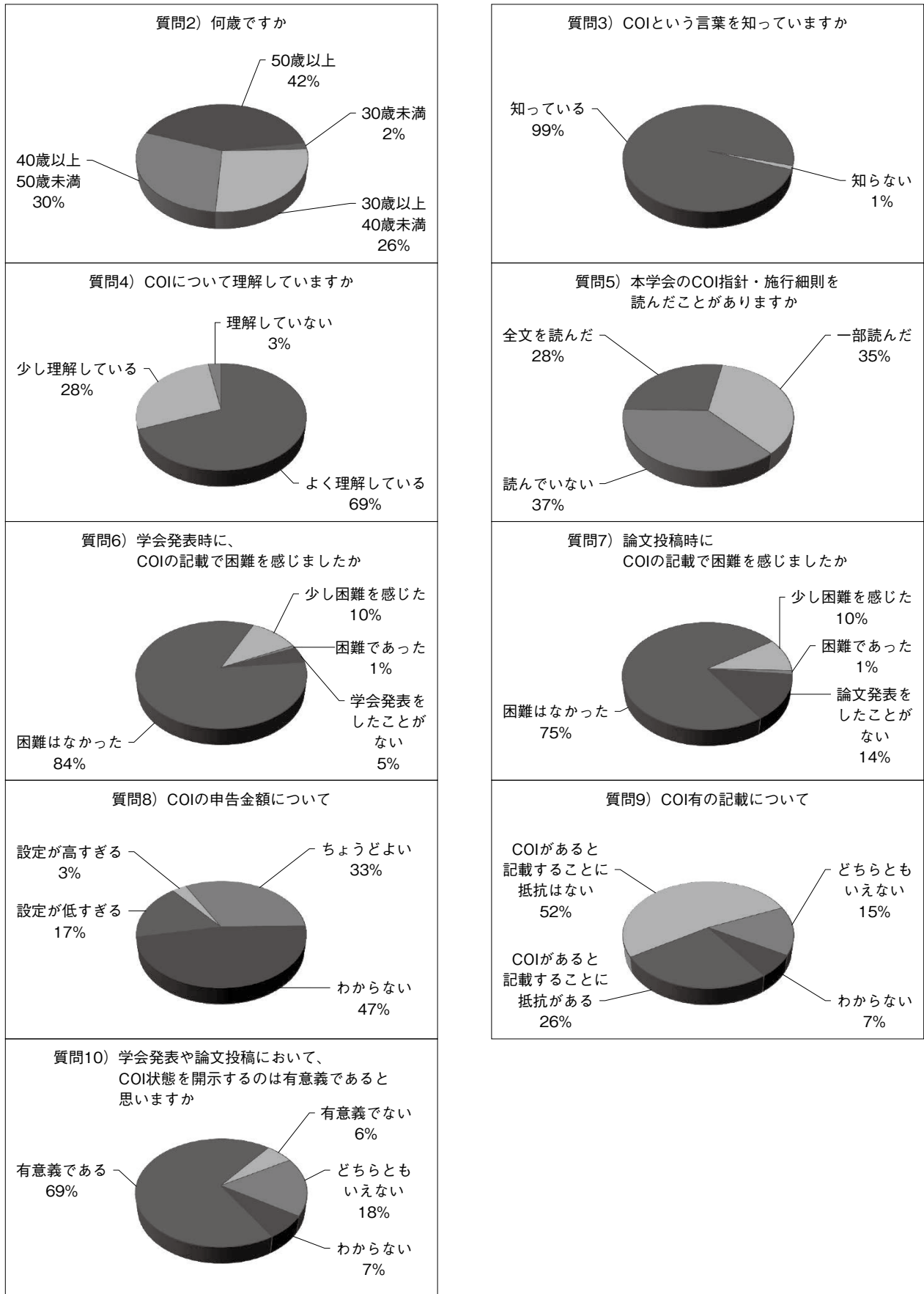


図2 日本呼吸療法医学会 COI アンケート集計結果 (医師)

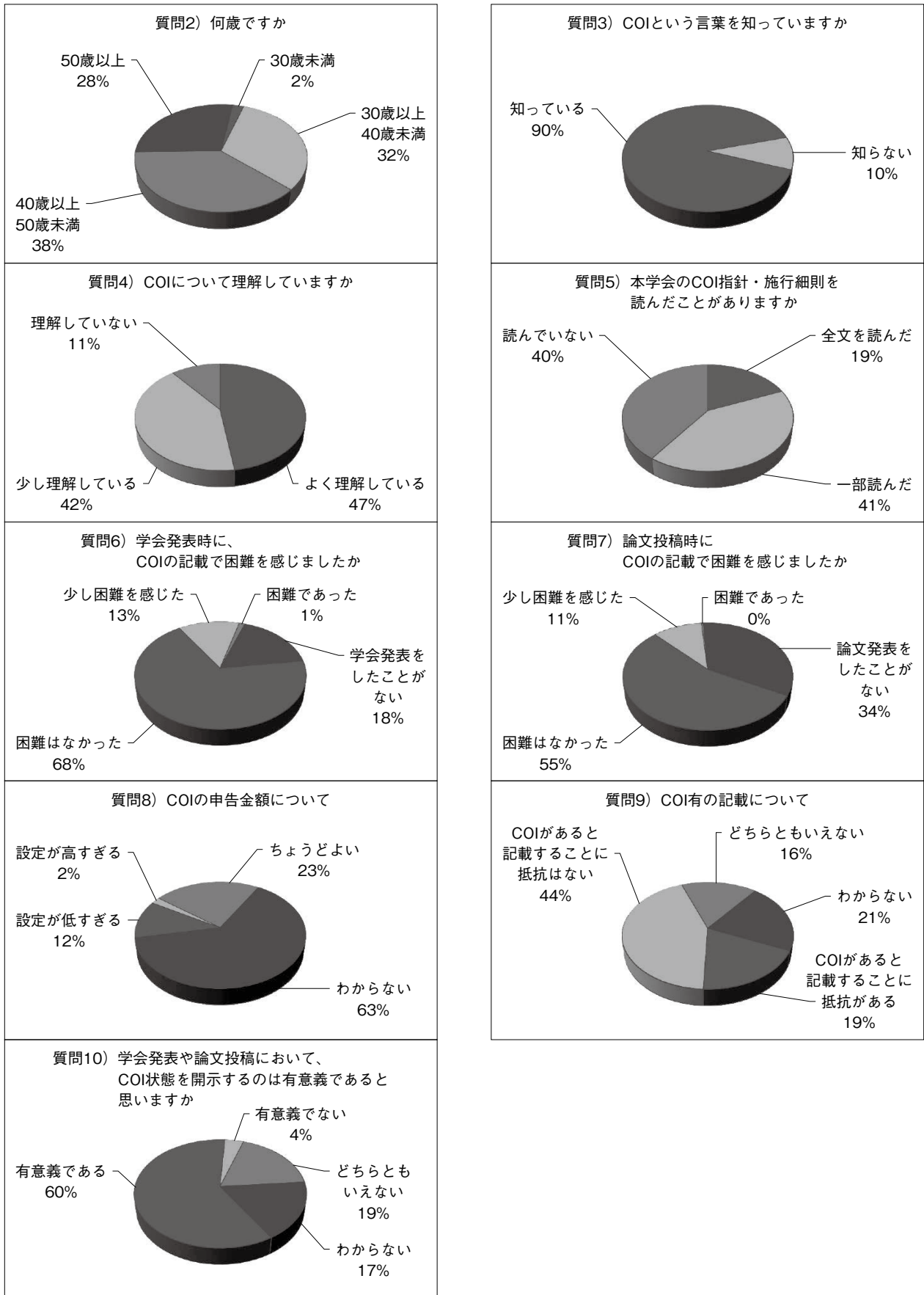


図3 日本呼吸療法医学会 COI アンケート集計結果 (看護師)

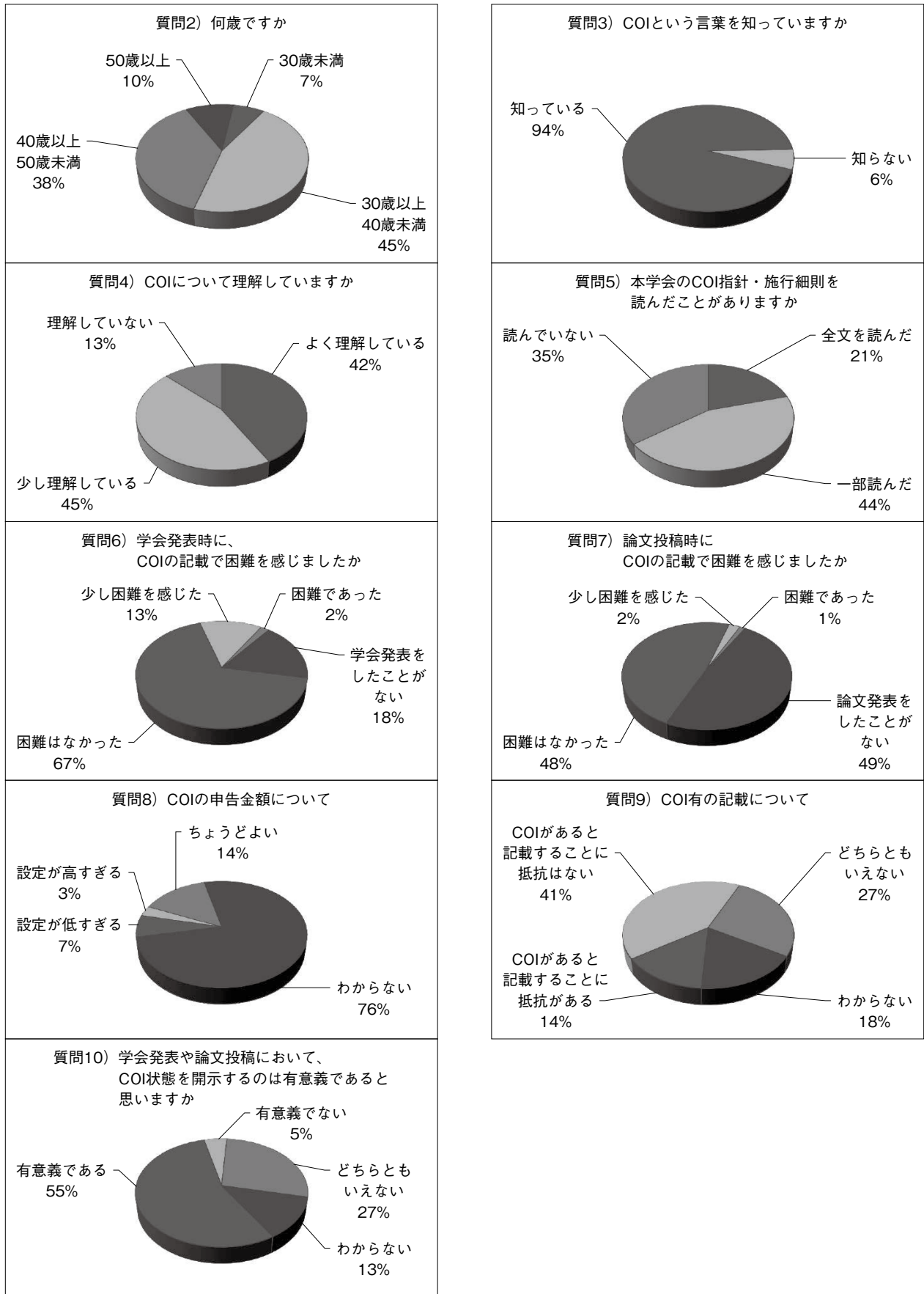


図4 日本呼吸療法医学会 COI アンケート集計結果 (臨床工学技士)

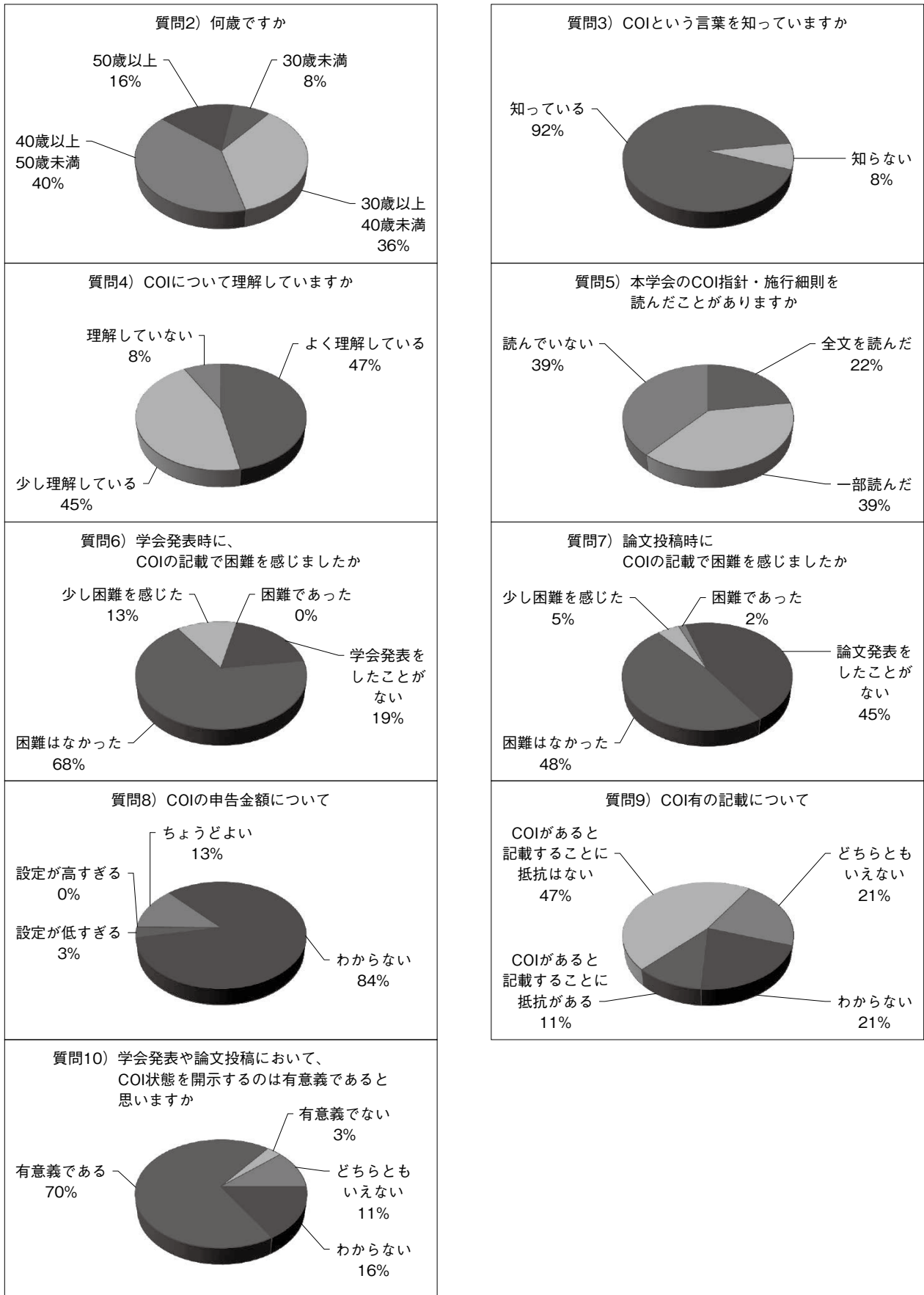


図5 日本呼吸療法医学会 COI アンケート集計結果 (理学療法士)

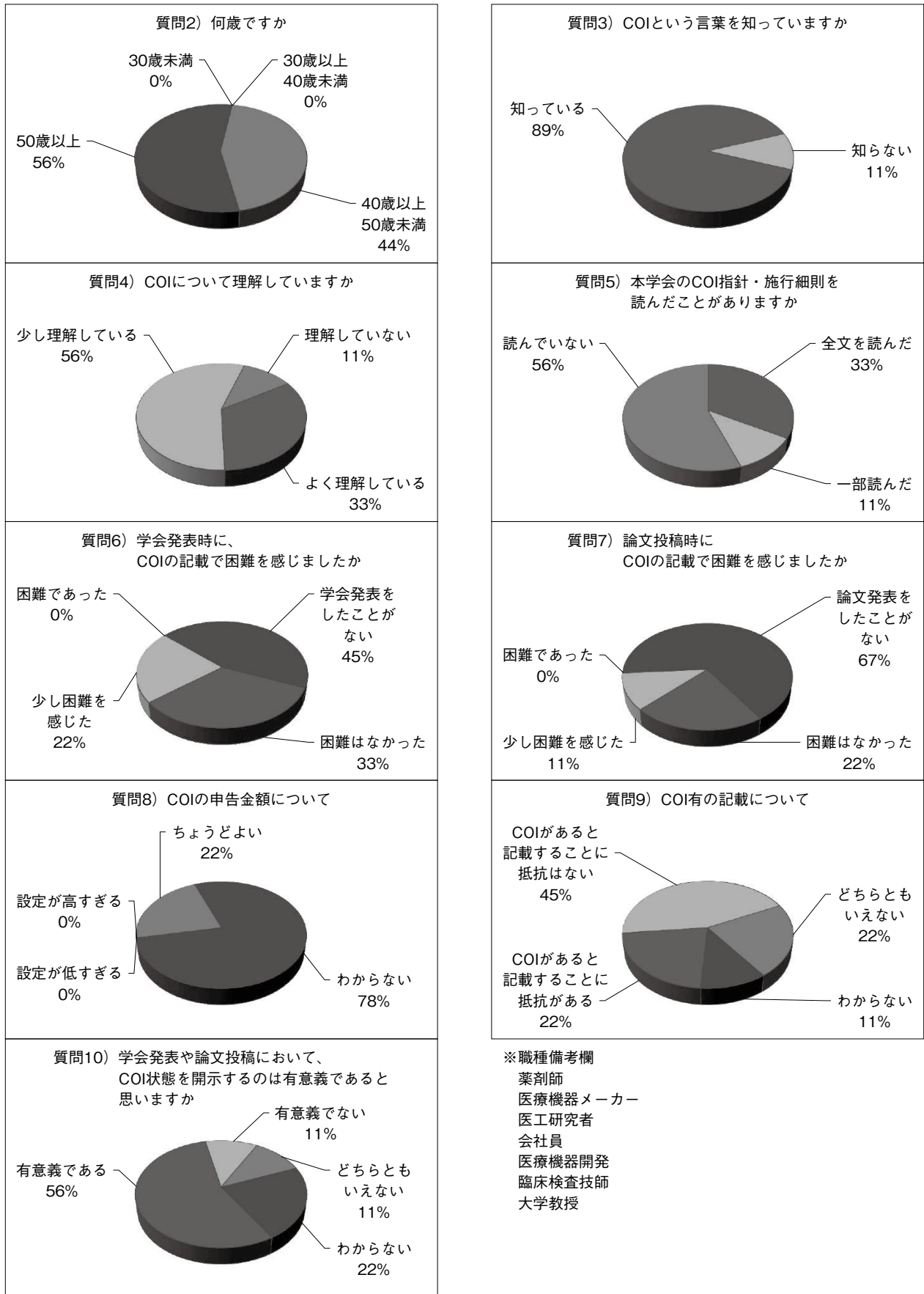


図6 日本呼吸療法医学会 COI アンケート集計結果 (その他)

A questionnaire survey on comprehension and disclosure of conflicts of interest (COI) in members of the Japanese Society of Respiratory Care Medicine

Conflicts of Interest Committee, Japanese Society of Respiratory Care Medicine

Hidekazu YUKIOKA, Kunihiko HOSHI, Ryosuke TSURUTA, Masaki NAKANE,
Kiyoko BITO, Kazuo FUKUMITSU, Yoshihiro YAGISHITA, Yuji FUJINO,
Koichi NAKAZAWA, Koshi MAKITA, Osamu NISHIDA

Corresponding author : Hidekazu Yukioka, MD

Osaka Yukioka College of Health Science, Department of Physical Therapy,
Faculty of Health Science
1-1-41 Soujiji, Ibaraki-city, Osaka, 567-0801, Japan

Key words : COI, questionnaire survey, multidisciplinary members

Abstract

Objective : To evaluate comprehension and disclosure of conflicts of interest (COI) in multidisciplinary members of the Japanese Society of Respiratory Care Medicine using an emailed questionnaire survey. **Methods** : The 1511 members who registered e-mail addresses with the society were asked to complete the COI questionnaire. **Results** : We received replies from 589 members (response rate : 39%). Almost all members knew the term "COI", although more than 30% had not read guidelines for COI management and detailed enforcement regulations of the guidelines of the society. A few members felt difficulty in the disclosure of COI in presentations in academic meetings of the society or publications in the official journal of the society. Many members expressed that they considered COI disclosure useful. **Conclusion** : Discussion of COI among multidisciplinary members may be important to promote better understanding of COI.